

■三浦義澄 武将。源氏の一斉蜂起の戦功で、鎌倉幕府の宿老となったが、頼朝の死の翌年没した。

みうらよしずみ

・・・・・・・・1127＝ 相模国三浦郡矢部郷で、_桓武平氏を祖とする武将三浦義明の子に生まれる。

鳥羽院政始・1129＝ 2歳：

・・・・・・・・1136＝ 9歳：

・・・・・・・・1145＝18歳：

為朝鎮西乱行1154＝27歳：

保元の乱・・1156＝29歳：

平治の乱・・1159＝32歳：_源義平に従って戦うも、平家に敗れ、郷里に落ち延びる。

・・・・・・・・1163＝36歳：

・・・・・・・・1164＝37歳：_兄が死去したため、家督を継ぐ。

清盛太政大臣1167＝40歳：

・・・・・・・・1172＝45歳：

源氏一斉蜂起1180＝53歳：*源頼朝の挙兵に際して一族とともに徴に応じ、三浦を出て参陣しようとしたが、丸子川の辺で頼朝が石橋山の合戦に敗北したことを知り、由井の浦で遭遇した畠山重忠の軍を破って三浦に帰った。この報復のため畠山重忠は同族の河越重頼・江戸重長を誘って三浦氏の居城である衣笠城を襲撃。三浦氏は衣笠城に籠城し、大手の東木戸口は義澄と弟義連、西木戸は和田義盛と金田頼次、中陣は長江義景と大多和義久が防備にあたった。合戦が始まったが、前日の由井の浦の合戦に続く戦いに疲労した三浦氏は衣笠城を支えきれず、義澄は一族とともに海上に脱出し、安房に渡海する途中の頼朝に遭遇した。安房国の長狭常伴が頼朝の居所を襲撃しようとしたが、義澄は事前に探知してこれを敗走させ、頼朝とともに上総・下総・武蔵を経て鎌倉に入った。富士川の合戦の帰途、義澄は相模国府で頼朝から先祖相伝の本領を安堵されたうえ、新恩の所領を与えられ、三浦介を称することを許されて幕府宿老の一人となり、新造の御所で?飯の役を務めた。

平清盛没・・1181＝54歳：

・・・・・・・・1184＝57歳：

平氏滅亡・・1185＝58歳：_源範頼の平氏追討軍に加わって西海に向かったが、*範頼軍が豊後に渡海する際、義澄は優勢の精兵として周防国の警備のために残留を命じられた。義澄は大いに不満であったが、屋島の合戦で勝利した義経が壇ノ浦をめざして周防まで進出すると大島の津に参会し、平氏追討の先鋒を命じられ、壇ノ浦の合戦に功をあげた。

奥州藤原滅亡1189＝62歳：_奥州征伐では阿津賀志山の合戦で力戦し、岩井郡平泉に向かう途次、栗原・三迫の要害を攻めて藤原泰衡の有力な郎従若次郎を謙教した。

源頼朝上洛・1190＝63歳：_頼朝上洛には随兵役を務め、在京中にはこれまでの勲功によって頼朝から右兵衛尉に推挙されたが、子義村に譲った。

鎌倉幕府始・1192＝65歳：_頼朝は征夷大將軍に任じられ、勅使中原景良・中原康定が除書を持参して鎌倉に参着した。義澄は頼朝の使者に立てられ、比企能員・和田宗実と郎従十人を従えて鶴岡八幡宮で除書を受け取り面目を施した。同年実朝が誕生すると、頼朝は義澄ら有力御家人12人を浜の御所に集め、おのおの心を一にして実朝の将来を守護すべきことを命じ、後事を託した。

源頼朝没・・1199＝72歳：*頼朝の没後は訴訟裁判における將軍頼家の親裁が停止され、宿老13人による合議制が行われたが、義澄はその1人として加わり、

梶原景時征討1200＝73歳：_多くの御家人とともに梶原景時の追放事件に加担し、まもなく、没した。